

第3章 価値創造への取り組み—事業別戦略

ミツミ事業

8本槍製品の相合により
今後の成長分野に向けた新製品を開発し、
グループ全体の
事業機会を創出

主要製品
精密部品 光デバイス 電源 機構部品
車載製品 半導体



取締役専務執行役員
ミツミ事業本部長
岩屋 良造

2019年3月期の概況

■ ミツミ事業 ハイライト

売上構成比 35%	ROIC 18%	新8本槍 重点5分野	1人当たり生産性 さらに改善
開発エンジニアの数 約 50% <small>(製造を除くミツミ事業全体に対する比率)</small>	新たな事業機会に向けて シナジー 発現	製品ポートフォリオ 大幅拡充	次世代に向けた 新製品 多数投入予定

当期の概況

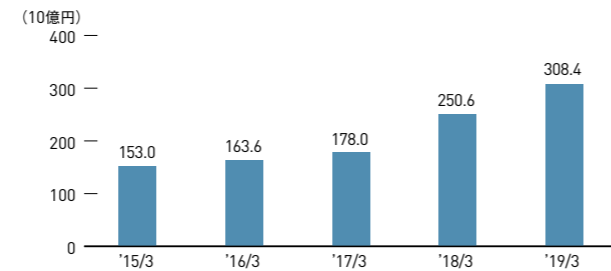
前期と同水準で推移

カメラ用アクチュエータ、ゲーム機器等の機構部品、スイッチ、保護IC等スマートフォン向け製品、アンテナ、通信モジュール、コネクタ等のほぼすべての製品で堅調に推移しました。

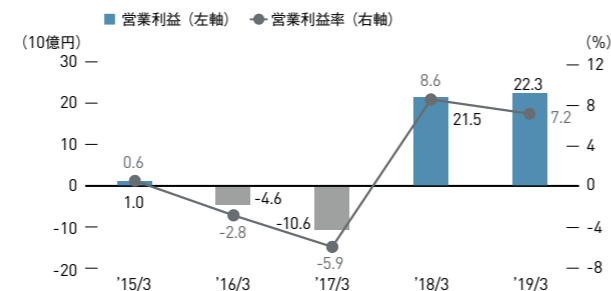
この結果、売上高は3,084億円（前期比22.2%増）、営業利益は223億円（前期比11.0%増）、営業利益率は7.2%となりました。特に半導体は、北海道地震による影響を受けたものの、生産性の改善と成長領域へのフォーカスにより実質的な収益性は向上しました。

なお、売上高は顧客との契約変更による売上の増加を除くと、前期比で6%の減少となります。また、営業利益については、定年延長等の人事制度改革による一過性収益や、北海道地震による稼働損、一部在庫処分費用等の一過性費用など、合わせて年度で約40億円のプラスの特殊要因が含まれています。

■ 売上高



■ 営業利益／営業利益率



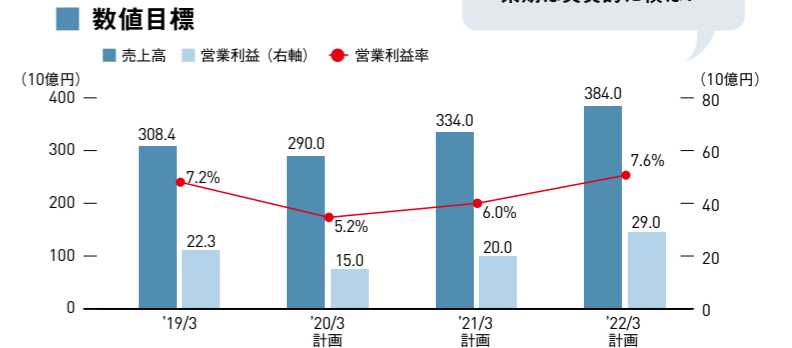
*2018年3月期までは日本会計基準、2019年3月期はIFRS

中期事業計画（2020年3月期～2022年3月期）

主なポイント

新製品の市場投入と新8本槍製品の相合を具現化する3年に

- 1 光デバイス**
イノベーションで付加価値向上
- 2 機構部品**
独自技術を活かした高付加価値 OEM
- 3 車載部品**
ユーシンとのシナジー
- 4 コネクタ／スイッチ**
ニッチ領域にフォーカス
- 5 アナログ半導体**
高付加価値品にフォーカス



来期は実質的に横ばい

新8本槍戦略の展望

センサー、コネクタ／スイッチ、電源、無線／通信／ソフトウェア、アナログ半導体

ミツミ事業の収益安定化に貢献

8本槍のうち5つがミツミ事業に属しており、今後大きく成長させていく事業領域となります。

例えば、IoTの出入り口ともいえるアナログ半導体では、アナログからデジタルへの変換を高速化するエッジデバイス向けの重要性が高まっています。これを受け、ADC（アナログデジタル変換回路）のニーズが増すとともに5G普及への貢献も見込まれます。さらにはモータードライバーを電子機器事業のモーター事業と組み合わせることで、付加価値向上とコスト競争力の強化が期待できるなど、ビジネスチャンスが広がっています。

社会課題を解決するソリューション創出

8本槍製品の相合がグループ全体の事業機会を創出

事業の絶対的な永続性の観点から、新8本槍製品を構成する5分野を将来のコア事業として力強く成長させることが、ミツミ事業として最も重要な課題であると認識しています。そのために、サブコアビジネスが生み出すキャッシュを成長原資として新8本槍製品を強化することが、ミツミ事業の基本戦略となります。その執行は、①自律的な成長、②これらの事業を包含する新製品の開発、③これらの事業を有効に活用できると思われる会社のM&Aを行うことで達成されます。新8本槍製品は、槍単独としての競争力を強化するのみならず、それぞれのシナジーを相合することで進化し、新たな事業機会を創

各分野の取り組み

- センサー** — ひずみゲージとMEMSセンサー技術を中核に
 - ・熱／環境測定向けセンサーの深堀り
 - ・ストレインゲージと合わせたIoTの重要部品としての事業拡大
- コネクタ／スイッチ** — キーワードは超精密・防水
 - ・防水タクティールスイッチのシェアアップ
 - ・車載用高速伝送品を中心にポートフォリオの大幅拡充
- 電源** — 高信頼性／高機能でIoTを制す
 - ・新規市場：電力・蓄電市場向けマイクロコンバータの展開
 - ・既存市場：照明、情報通信、家電市場向け等で小型化・高周波化を推進し拡販
- 無線／通信／ソフトウェア**
 - 車載製品を中心に市場拡大し、IoTにも対応する
 - ・コネクテッドカー向け次世代通信アンテナの早期開発と販促受注（TCUアンテナ等）
 - ・インド／スロバキア工場の活用
- アナログ半導体** — アナログ半導体はIoTの出入口
 - ・産業・住宅設備市場向け高付加価値製品の拡販
 - ・カーインフォターメント市場でのシェア拡大
 - ・高付加価値製品（ADC＋IGBT）にフォーカス

出することが非常に重要となります。

また、2019年4月より経営統合したユーシン事業とは、トップライン、コストの両輪で非常に大きなシナジーが期待できます。ユーシン事業のアクセス製品は、自動車向け、住宅設備向けのいずれも、IoTと密接に関連した高度なコネクティビティ技術や専用デバイスが要求されます。ここに、ミツミ事業が最も強みとする高周波技術や無線通信技術等のリソースを活用することができます。

このように、グループ内の相合によるシナジーを発揮し、IoT社会に貢献する革新的な事業活動をしてまいります。